



発行所

東京九嶺宮原同窓会事務局

〒263-0043 千葉市稲毛区小仲台7-21-26-508

末永俊幸方

電話 090-6943-8065

印刷：泰成印刷株式会社

電話 03-3631-8141

## 東京九嶺宮原 同窓会について



東京九嶺宮原同窓会

会長 大崎 康博

(九嶺24回)

私は、平成12年11月11日の東京九嶺宮原同窓会総会において会長に指名されお受けして以来今日に至っております。

それとは別に、九嶺24回、宮原三回生の仲間が30〜40年に亘り、年数回の囲碁・ゴルフの1泊旅行、その他時々集まる「宮嶺会」と命名した懇親会があります。これ等同窓会・同期会を通じて、広島人の県民性か、呉人の特性か、或いは九嶺宮原人<sup>かたぎ</sup>気質か殆ど全員がことをするに当たって献身的で自己犠牲を惜しまず、それでいて他人に対しては寛容で、しかも、小事に拘らず、大らかであるという誠に楽しい、気持ちのよい関係が続いております。これ等の人達の集まりである隔年開催の同窓会総会は、日本を代表する同窓生の学者の学術講演を聴き、その後で懇親会という充実したものであります。懇親会では、講師も同窓生の仲間として、昔に返って遠慮のない言葉のやりとりで旧交を温めております。

この雰囲気は日本中何処でも普通に見ら

れる社会になれば日本の社会はもつと明るく、将来に希望が持てると思います。しかし、今の日本は、これと反対に人と人との関係が薄く、「絆」は細くなり、将来についていささか、心の曇る思いにさせられます。

昨年12月23日付け朝刊各紙で、大阪市立高校の男子生徒が体育部顧問の体罰を苦にして自殺したことが報じられました。

この様なことが今後起きないための対策が必要であることは言うまでもありません。

其のことは別に、本件について、別の角度から、検討すべき問題を含んでいるのではないかと思います。自殺した男子生徒が、体罰を加えられたことに対し自ら死への道を選んだほど悩み、苦しんでいたのであれば、死を選ぶ前に、家族、友人、その他周囲にいる人達に相談することは出来なかったであろうか、せめて愚痴としてこれ等の人に胸中を漏らすだけでも事態は変わっていたのではないかと思います。或いは、既に周囲の人に漏らしていたにも拘わらず、

聞いた人がこれを感じ取れなかったのであるか。どちらにしろ、そのことは現代の人間関係が希薄であることを物語っているのではないのでしょうか。

現代社会の価値観の多様性から、人々の夫々の考え方、生き方を尊重すべしとの観点から、他人の生活に干渉しなくなり、更に進んで無関心になってきたように見えます。今の子供は、友達と一緒にいるときでさえ各自が勝手気侷にゲームで遊んでいると聞きます。これ等の事象を見聞きするに付け、人と人との関係が希薄なっているのではないかとの思いが強くなります。人間関係が希薄になれば、他人との関係がギクシャクし、社会は不安定になります。このことと、最近見聞する奇妙な社会のトラブルや犯罪の発生と無関係ではないと思われまます。人間は社会的動物として、人との関係は避けられません。仕事関係、友人関係、近所付き合い等あらゆるところで人と人との関係を持ち、そのなかで、人との関係を調整しながら生活するわけでありまます。

日本中の人々が、他人を尊重しながら、必要なことは遠慮せず、しかも、和やかな雰囲気のもとで自分の意見を言うことのできる東京九嶺宮原同窓会の集まりのような社会になることを願っております。